

1年

2年

3年

4年

5年

6年

今も昔も

・狂言 柿山伏／柿山伏について

学習時数●四時間（読む四）

目標

◎狂言独特の調子や表現のおもしろさに気づき、日本の伝統文化に親しむ。

身につけたい力

読／伝……狂言独特の表現やリズムを味わいながら、声に出

して読む。(1)ア／(1)ア(ア)

伝……現代の言葉と比べ、言葉の変化に気づく。

(1)イ(イ)

伝……昔の人のものの方や感じ方を知る。(1)ア(イ)

指導計画例

第1時

狂言とその時代背景についての説明を読む。

関 写真や文章をきっかけに、日本の伝統文化に興味をもって
いる。

第2時

「柿山伏」を声に出して読み、狂言独特の表現や調子のおもしろ
さに気づく。

関 狂言独特の表現や調子のおもしろさを確かめながら読もう
としている。

読／伝 狂言独特の表現や調子のおもしろさを意識して、楽し
んで声に出して読んでいる。

伝 現代とは違う言葉遣いや言い回しに気づいている。

第4時

「柿山伏について」を読み、昔の人のものの方や感じ方につい
て思ったことを話し合う。

関 自分と比べるなどして、昔の人のものの方や感じ方を読
み取ろうとしている。

伝 現代に通じるユーモア、人の生き方（人間の愚かしさ、賢
さ、それを認める広い心など）について気づいたことを話
している。

指導の展開例

第1次（1時）

目標

日本の伝統文化に興味をもち、狂言を読みたいという意欲を高める。

時	学習活動
1	<p>① 知っているお話がいつごろできたものであるかを予想する。</p> <p>〈例〉「竹取物語」の書きだしを「かぐや姫」の語り口と比べる。</p> <p>② そのほかの昔から伝えられてきた文化について考え、学習の計画を立てる。</p> <p>③ 教科書P 116・117「今も昔も」を読む。</p> <p>④ 日本文化にふれてみる。</p> <p>⑤ 教科書P 118の狂言についての説明を読む。</p>

知っているものを切り口に興味・関心を広げる

- 「かぐや姫」として知っている「竹取物語」が平安時代に作られた物語であることを知り、子どもたちは驚くであろう。その驚きをほかにもつなげ、日本文化について知りたいという興味に結びつける。「かるた」「百人一首」「ことわざ」「落語」などは容易に思いつくだろう。

脈々と受け継がれてきた日本文化のすばらしさを

- 社会科学習と合わせて年表を使いながら、時代と作品や文化をまとめておく。教材文の下にある年表にメモしてもよい。

奈良時代	歌集「万葉集」
平安時代	「竹取物語」・「源氏物語」 （紫式部）・「枕草子」 （清少納言）
鎌倉時代	「小倉百人一首」
室町時代	能・狂言
江戸時代	俳句・歌舞伎・人形浄瑠璃

実際に自分の目や耳で確かめる活動を

- 「源氏物語」「枕草子」等の冒頭や、次の教材「短歌・俳句の世界」を読んでみる。自分の声に出してみることで感じたことを出し合う。
- 能、狂言、落語、歌舞伎、文楽はVTRで少し視聴するとおもしろさを実感できる。

次時からの学習へ期待を

- どんなせりふややり取りがあるのか、次時以降の学習に期待感をもたせる。

評価

関 写真や文章をきっかけに、日本の伝統文化に興味をもっている。〔観察・発言〕

第2次(2・3時)

目標

狂言独特の表現や調子のおもしろさを楽しみながら「柿山伏」を音読することができる。

時	2
学習活動	<p>①「柿山伏」を音読する。(「柿山伏」のビデオを視聴するのもよい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脚注と照らし合わせ、独特の言い回しを確認しながら読む。 ・ 二人組で役割を決め音読を重ねる。 <p>②おもしろさを交流しながら、大まかな組み立てをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物 ・ 場所 ・ 話の展開のおもしろさ ・ 二人の掛け合いのおもしろさ <p>③独特の言葉や言い回し、口調のおもしろさを楽しみながら、グループで音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面を区切って、役割読みをする。振りをつけたり、演じたりしても楽しい。

おもしろさを耳や目で

- 狂言は文字で理解するより、実際に演じられているものを鑑賞することが望ましい。狂言を習っている方に演じてもらったり、VTRやCDなどの視聴覚教材を活用したりして本物にふれさせたい。無理であれば教師の音読から入る。
- 自分の声に出して読むことも、おもしろさを感じる活動である。意味を理解することよりもまず、自分の声に出してみることを大切にしたい。

詳細な読解より感じたことから

- 独特な言葉や言い回しの文章だが、ストーリーはなんとなくつかめる。詳細な読解をするよりも、おもしろさを交流する中で大まかな組み立てを理解できるようにしたい。
- ストーリーのおもしろさ
 - 修行する山伏が、腹の空いたのに耐えられず柿を盗み食いしてしまう。そこへ柿主がやってきて、山伏のしたことに気づく。山伏は自分のしたことをごまかそうと、柿主のからかいに乗って次々とこっけいなことをする。最後には取り押さえられてしまう。

交流する楽しさを

- 一人で音読するよりもグループで交流しながら音読する楽しさを味わわせたい。役割を決め、場面を分担して聞き合う。読み方のいいところを認め合ったり、アドバイスしたりして何回か音読できるようにする。その中で出た表現のおもしろさは次時に使うのでメモしておく。

3

①前時に出た表現や調子のおもしろさを学級全体で交流する。

- ・ 口調のよさ
- ・ 独特の言葉
- ・ 掛け合いのおもしろさ

②黒板にはられた言葉を、現代の言葉遣いや言い回しと比べてみる。

- ・ 鳴き声や音

③現代の言葉遣いや言い回しと比べた感想を書く。

④出された独特の言葉や掛け合いのおもしろさなどを意識して音読する。

- ・ グループで役割分担して音読し、よさを認め合う。

交流による深まりを

●前時で気づいたおもしろさを各グループごとにカードに書き、黒板にはる。それを整理しながら、みんなで交流することで思いが深まっていくことに気づかせたい。

●「貝をも持たぬ山伏が、貝をも持たぬ山伏が……」（自分の紹介をして出てくる）

「これはいかなこと」（独特の表現）

「はあ、飛ぼうぞよ」「ひい」「飛びそうな」（掛け合いのおもしろさ）

「こかあ、こかあ、こかあ、こかあ」「ぼろんぼろ」（鳴き声や音）

現代と比べるおもしろさ

●昔の言葉遣いや言い回しを現代と比べてみて思ったことを、二三百字程度にまとめる。現代のような直接的な言い方と比較してみることで、昔の人の思いを考えられることができるだろう。

おもしろさを意識して音読

●狂言独特の言葉遣いや言い回しを意識しながら音読できるようにする。どこを意識して音読するかをグループで

伝え、お互いに認め合う。

工夫したいこと ・言葉	友達から
・どのように	○ ○ ○ ○

評価

関 狂言独特の表現や調子のおもしろさを確かめながら読もうとしている。「観察」
読／伝 狂言独特の表現や調子のおもしろさを意識して、楽しんで声に出して読んでいる。「観察」

伝 現代とは違う言葉遣いや言い回しに気づいている。「カード・ノート」

第3次（4時）

目標

昔の人のもの見方や感じ方について話し合うことができる。

時	学習活動
4	<p>① 前時の現代の言葉と比べた感想をもとにこれからの学習のめあてをもつ。</p> <p>② 「柿山伏について」を読み、自分や友達の感想と比べてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理解できていたこと ・ 新たな発見 <p>③ 狂言のもつおもしろさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代に通じるユーモア ・ 人の生き方（人間の愚かしさ・賢さ・すべてを認める広い心） ・ 現代まで受け継がれているわけ <p>④ 狂言を通して昔の人のもの見方や感じ方を考える。</p> <p>⑤ ほかの狂言や伝統文化にふれてみる。</p>

学び方を学ぶ——学習のつながりを——

- いきなり本時の学習が始まるのではなく、学習がつながっていることを意識することが大切である。前時に書いた感想を生かすことで、学習がつながっていく。できれば児童全員の思いが分かるシートを作成するとよい。
 - 自分たちの思いと比べてみることで、共通した思いや新しい考えが生まれてくる。自分たちの文章から新たに立ち上がる思いもあるし、新たな筆者の考えに出会うこともできるだろう。
- ### 現代に生きる古典の心

- なぜ狂言が長い年月受け継がれてきたのか、そこに流れる人々の考え方や感じ方について話し合う。筆者の「人間はかしこさもおろかさも、みな同じようにもっているのです。それを理解していれば、だれもみな、ゆったりと広い心をもって、いたわり合いながら、仲よく楽しく生きていける」という考えを、現代の世相に合わせて考えてみるとよい。
 - 現代の文化が後世残るだろうかという切り口から考えてみるもおもしろい。
 - 昔の人のもの見方や感じ方について今の自分と比べてたり、これからの生き方について考えたりしたことを二百字程度の文章にまとめる。
- ### 多様な文化にふれる
- これまでの学習を生かし、読書領域を広げる活動につなぐことも大切である。

評価

関 自分と比べるなどして、昔の人のもの見方や感じ方を読み取ろうとしている。

〔発言・観察〕

伝 現代に通じるユーモア、人の生き方（人間の愚かしさ、賢さ、それを認める広い心など）について気づいたことを話している。〔発言・文章〕

短歌・俳句の世界

学習時数●三時間（読む一 書く二）

目標

◎文語の言葉の響き・リズムや優れた表現を読み味わうとともに、生活の中から感じたことや発見したことを短歌・俳句の形式で表現する。

身につけたい力

書……………短歌・俳句の形式の中で表現を工夫し、また友達の表現の工夫に気づく。(1)オ(2)ア
書……………お互いの作品について、表現のしかたに着目して助言する。(1)カ
読……………短歌・俳句の優れた表現を味わう。(1)エ

指導計画例

第1時

教科書に載っている短歌・俳句を音読し、自分の好きな一首・一句を選んで、好きな理由や感じたことを発表し合う。

関 短歌・俳句に興味をもち、自分がいちばん好きなものを選び、ほうとしていく。

読 好きな短歌・俳句を選んで、想像豊かに読み味わい、自分なりに鑑賞している。

第2時

3時

季節を表す言葉や、生活の中で発見したことなどをとくに短歌・俳句を作り、できた作品を読み合っ、工夫されていると思う表現を見つけて。

関 表現の工夫をしながら短歌・俳句を書こうとしている。

書 言葉を吟味する、順番を工夫するなどして、表現を工夫したり、友達の表現の工夫に気づいたりしている。

書 友達の作品について、表現の工夫や効果に着目して感想を述べている。

指導の展開例

1年

2年

3年

4年

5年

6年

第2次(2・3時)

目標

短歌・俳句を作り、互いの作品の表現の工夫を味わうことができる。

時

2

学習活動

①季節を表す言葉や、生活の中で発見したことの中から、短歌や俳句の題材になりそうなものを選ぶ。
 ・季節を表す言葉や生活の中で発見したことをカードに書く。
 ・短歌・俳句の材料になりそうなカードを選ぶ。

②短歌や俳句の特徴を確認する。

・短歌「五・七・五・七・七」
 ・俳句「五・七・五」季語

③自分の集めた言葉や発見を使い、短歌や俳句を書く。
 ・自分の作品の中から短歌・俳句を一つずつ選んでおく。

言葉に敏感な感性を

●短歌や俳句を書いた経験がない子どもたちにとって、いきなり書くことは難しい。書く材料がすぐには見つからないからだ。しかし、子どもたちは短詩型の文章を書くことは好きである。四月から言葉集めをしたり、生活の中で発見したことをメモしておいたりする活動を継続しておくとうい。言葉の貯金箱、個人の「発見ノート」なども一例である。

●小学生の作品が載っている本や文集などを用意しておき、抵抗を除くことも考えられるが、いっぽうで類似の作品が出やすくもなるので注意が必要である。

リズムを楽しみながら

●五七音のリズムは生活の中に多く、日本人にとって落ち着く調子である。また、俳句や川柳は現代生活でもよく見かける。俳句から創作するほうが抵抗が少ないだろう。リズムで言葉を作っていく楽しさをぜひ味わわせたい。それぞれ、音の制約はあるものの、最初はこだわらないようにする。字余りや字足らずについて触れておくとうい。俳句の季語についても強制せず、自由に創作させたい。言葉のリズムを楽しむことを第一とする。

カードを利用して

●選んだカードに肉付けしていく。カードに言葉を付け足したり、いろいろに並べ替えたりしてみるとよい。

ほほなでる

風にひとひら

うめの花

春の言葉

・やわらかな日差し
 ・小川のせせらぎ
 ・満開の桜
 ・ほほなでる風

3

①活動のめあてを確認する。

- ・ 友達の作品のよさを見つける。
- ・ 自分の作品と比べ、感想を述べる。

②グループで作品を発表する。

- ・ 作品だけを発表する。
- ・ 友達の作品のよさや感想を述べる。
- ・ 自分がなぜその作品を選んだのか、自分の思いを述べる。

③学級全体で発表する。

- ・ 一グループずつ発表する。
- ・ 司会はそのグループが行う。
- ・ 表現の工夫や効果に着目して感想を述べる。

④友達の助言を参考にして作品を書

- き直し、学習のまとめをする。
- ・ 後日、学級の作品集を作る。

認め合う雰囲気作り

●短歌・俳句は初めての創作なので、いきなり全体で発表するのは抵抗があるかもしれない。そこで、まずグループ内で発表し合う場を設定し、抵抗感をなくしていく。友達の作品のよいところを見つける活動であること、否定的なことは言わないことを確認する。

まず、友達の感想から

●前時に書いた作品の中から、いちばん好きな作品を発表する。自分がなぜそれを選んだかは最後に言う。友達の感想が、作者の意図に左右されないようにする。

●作者の思いにふれるような感想、自分の作品と比べてのよさなどを言われることで、作った児童は理解してくれたことに喜びを感じるはずである。最後に、自分の作った思いや友達の感想に対する自分の思いなどを述べるようにする。

だれの作品か分からないおもしろさ

●全体の場では、名前を伏せてグループごとに一枚の模造紙に書いておく。リーダーが全部を読み上げ、感想や助言を言ってもらう。学級全体では表現のしかたについての助言も入れる。作品の下によさや助言をメモしておく。後で作者を発表するので楽しみがある。可能であれば、グループで一点選び、それぞれ賞をつけてもおもしろい。意外な作品が選ばれることが多い。

評価

関 表現の工夫をしながら短歌・俳句を書こうとしている。〔作品〕

書 言葉を吟味する、順番を工夫するなどして、表現を工夫したり、友達の表現の工夫に気づいたりしている。〔作品・発言〕

書 友達の作品について、表現の工夫や効果に着目して感想を述べている。〔発言〕

三 相手や目的に合わせて書こう

ガイドブックを作ろう／
よりよい文章に

学習時数●十一時間（書く十二）

<p>目標</p> <p>◎自分が訪れた場所などについて、読む人のために必要な要素と効果的な書き方を考えて、ガイドブックを作って交流する。</p>	<p>身につけたい力</p> <p>書……………利用者を想定して、役に立つガイドブックを作るための情報を集め、整理する。(1)ア</p> <p>書……………目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする。(1)ウ</p> <p>書……………自分の考えが伝わるように、必要に応じて図表やグラフ、写真を用いて、全体の構成をはっきりさせて目次を作る。(1)エ(2)イ</p> <p>書……………分かりやすい構成を考え、地図や絵、文章などの配置や書き方を工夫する。(1)オ</p> <p>書……………お互いの作品について、表現やレイアウトのしかた、図や表の用い方に着目して助言し合う。(1)カ</p>
---	---

指導計画例

第1時	<p>全文を通読し、ガイドブックを作る活動の計画を立てる。</p> <p>関 ガイドブック作りに興味をもっている。</p>
第2時	<p>いろいろなガイドブックを集めて参考にし、だれに向けて、どんなガイドブックを作るかを決める。</p> <p>書 相手・目的を考えて、ガイドブックで紹介する内容を決めている。</p>
第4時	<p>必要な材料を集めて、全体の構成を決め、目次を作る。</p> <p>関 伝えやすさや分かりやすさから全体の構成を考えようとしている。</p> <p>書 相手・目的に合わせて集めた材料から必要なものを選び、全体の構成を考え、目次を作っている。</p>
第7時	<p>図表やグラフ、写真を取り込んだ割り付けを行い、記述を工夫してガイドブックを作る。</p> <p>関 読み手に分かりやすく伝わるように、必要な写真、図を用いて書こうとしている。</p> <p>書 必要に応じて写真、図、小見出しなどを効果的に配置し、文章を書いている。</p>
第10時	<p>できあがったガイドブックを読み合い、表現やレイアウトのしかたに着目して助言し合う。</p> <p>関 相手・目的に合わせた効果的な書き方を考えようとしている。</p> <p>書 表現やレイアウトの工夫やその効果に着目して、友達のガイドブックについて助言している。</p>
第11時	<p>できあがったガイドブックを読み合い、表現やレイアウトのしかたに着目して助言し合う。</p> <p>関 相手・目的に合わせた効果的な書き方を考えようとしている。</p> <p>書 表現やレイアウトの工夫やその効果に着目して、友達のガイドブックについて助言している。</p>

指導の展開例

第2次（4～6時）

目標

ガイドブックを作るために必要な材料を集めて、全体の構成を決め、目次を作ることができる。

時	4
学習活動	<p>①ガイドブックを作る相手・目的に合わせて、必要な材料を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで情報を収集 ・現地で取材活動（写真を撮る・インタビュー） ・本で調べる。（学校図書館・地域の図書館） ・パンフレットやリーフレットを集める。 ・そのことについて情報をもっている人に取材する。

多様な取材方法で必要な材料を集める

- 多くの情報は、インターネットで集めることができる。しかし、中にはインターネットで得た情報をそのまま転記すればいいと考えている児童もいる。コンピュータの利用のしかたや、インターネットモラルについて指導する必要がある。
- 校外で取材活動をする場合には、事前に十分な準備をしておかねばならない。取材の相手先へのお願い、連絡、取材やインタビューの内容、しかたなども指導しておく。子ども自身がお願いをするだけでなく、教師からも連絡が必要である。
- デジタルカメラについても、使い方だけでなく、撮影のしかたの指導も必要である。
- 集めた材料は、第一次情報として保管しておく。後で必要な情報の整理をするとき、分かりやすい形にしておくことが望ましい。
- グループで作成する場合には、作業の偏りがなく、うしななければならない。どの子も同じ活動ができるよう配慮する。

〈情報カード例〉

1 知りたい情報
2 情報の集め方
① いつ
② どこで
③ だれに（何で）
④ 調べること
⑤ パンフレットや取材、インタビュー、インターネット
得た情報
はる
⑥ そのときの感想、考え、疑問など

5

①集めた材料の中から、相手や目的、書くねらいに合わせて材料を分類整理し、必要な材料を選ぶ。

〔板書例〕

だれが、なんのために読むのかを
考えて、必要な材料を選ぼう。

材料の整理のしかた

- ・目的
- ・書き手のねらい
- ・その資料が必要か、必要でないか
- ・くわしく述べたいところ
- ・簡単に述べるところ
- ・分量、構成、写真、図の使い方

相手や目的、書き手のねらいに合わせた選材

●書く目的がずれないように、再度相手や目的、書くねらいをおさえ直す。

だれに

何を

読んだ人にどんな気持ちになってほしいか。

- ・集めた材料を、同じ内容を説明した情報、関係のある情報などの観点で分類、整理する。
- ・同じ内容の資料ならどちらが適切か、読み手に分かりやすいかを考えて選ぶ。
- ・書く分量やスペースも考え合わせ、本当に必要な材料か、必要ではない材料かを考える。
- ・グループでガイドブックを作る話し合いでは、一部の児童の発言で進まないように配慮する。
- ・個人のガイドブックを作る場合は、一人で材料を選びにくい児童の支援をする。材料が足りない場合が多いので、何を集めればいいのかをいっしょに考える。

6

①ガイドブック全体の構成を考えて目次を作る。

・教科書P40の目次例を参考にし、作り方を確認する。

②紹介したい内容ごとにカードを並べ替え、整理しておく。

・新たな資料が必要になった場合は、もう一度集め直す。

整理された材料をもとに、全体の構成を

●教科書P40の目次例を参考に、どのような順序で事柄が並べられているかを確認する。例では、全体を大きく四項目に分け、そのうちの二つはさらに二項目に分けている。このわけを考える。読む人に情報が伝わりやすいように工夫されていることに気づかせる。

〔板書例〕

利用者の使いやすさを考えて目次を作ろう。

構成

- 1 どんな順番にするか。
(全体的な説明から部分へ)
- 2 開いたページにどんなことが書かれていたか。
- 3 くわしく書きたい内容をどこにするか。

目次

- 短い言葉で
- 書かれている内容がひと目で分かるように
- 読みたくなるような楽しい表現で
- 注目させたいものが目立つ工夫
(字の大きさ・文字の形)
- ページを入れる

●教科書P40の目次例の構成

○博物館について	↓ 全体的な案内(どのようなどころか)
○利用案内	↓ 利用者が入館するための情報
↓ 場所・学校からの行き方	↓ 道案内
↓ 開館時間・入場料・休館日	↓ 時間や料金など
○博物館の展示内容	↓ 展示内容についての具体的な情報
↓ 博物館全体の見取り図	↓ 建物全体について
↓ 歴史博物館の見どころ	↓ 展示内容ですすめたいところ
○わたしたちのおすすめ	↓ 博物館全体ですすめたいところ
↓ 野外施設「大塚・歳勝土遺跡公園」	

・前時に並べ替えて整理しておいた材料をもとに構成を考える。全体を大きくいくつに分けるのか、部分の説明をどのようにするのか、利用者が使うための具体的な情報(道案内・料金・時間など)、自分たちが特にすすめるものをどれにするかなど、観点をしぼって話し合うようにする。

・それぞれの内容がどのくらいの分量になるかを考えて、ミニチュアサイズの見本を作る。分量を考えたり、開いたときにどのように目に入るかをイメージしたりするのに適切である。縮小版の見本を作ると、ページ割がイメージしやすい。

・並べ方が決まったら、それぞれの内容について見出しを考える。

・目次を使いやすく見やすいものにするための工夫は、教科書の目次例や集めてきたガイドブックやリーフレットの目次を参考にして考えるとよい。

・グループで作成する場合は、内容ごとに執筆者を決めておく。分担に偏りがないか、負担がかかりすぎているか、力量に合っているかなど、グループごとに支援する。

評価

関 伝えやすさや分かりやすさから全体の構成を考えようとしている。〔観察〕

書 相手・目的に合わせて集めた材料から必要なものを選び、全体の構成を考え、

目次を作っている。〔目次〕

第3次（7～10時）

目標

図表やグラフ、写真を取り込み、記述を工夫してガイドブックを作ることができる。

時	8.7
学習活動	<p>①項目ごとにページ内の割り付けを考え、下書きを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通のルールを確認する。 ・レイアウト用紙に、見出し、写真・図などを実際に配置する。 ・文章の分量の目安を決める。 ・下書きをする。
<p>読み手を引きつける割り付けの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物大のレイアウト用紙を用意し、スタイルを決める。（用紙の向き・縦書きか横書きか） ・効果を考えて図表やグラフ・写真などを配置する。（飛び出す絵本など参考に） ・自分で調査したものをグラフに入れてもよい。（人気ベスト3など） ・見出しの大きさを決める。（読み手の目を引くように） ・文字の大きさ・色・形の工夫をする。 ・教科書の例や集めてきたガイドブックを参考に、レイアウトを考える。 ・ワンポイントやアドバイスコーナーなど、読み手が楽しめる工夫をする。 	<p>記述の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の分量を決める。 ・文体を決める。（常体か敬体か、語りかける口調にする、キャラクターが説明していくなど） ・集めてきた情報を、そのまま書き写さない。 ・読み手が分かりやすいように、自分の言葉に直して書く。

①「よりよい文章に」を手がかりに、書いた文章を読み直し、訂正して仕上げる。

〈板書例〉

読む人に分かりやすいように、書いた文章を読み直そう。

1 内容・構成

① 相手や目的に合っているか

② 伝えたいことが分かるか

2 表記・表現

① 一文が長すぎないか

② 「だ・である」と「です・ます」

③ 主語と述語

④ 漢字や送り仮名のまちがい

⑤ 句読点、かぎなどの符号

3 読み手を引きつける工夫

① 写真や図などが入っているか

② 文末表現・小見出し・書きだし

② 表紙・後書きを付け、製本する。

・表紙を付ける。(題をつける)

・おく付けを書く。

(作成年月日・作者名)

・後書きを書く。

(ねらい・使い方・メッセージ)

● 相手や目的に合わせた文章に

● 教科書P44の「よりよい文章に」を手がかりにして、本単元に合うように観点を決める。そのうえで、相手や目的に合わせた文章になるように推敲する。

〈推敲の観点〉

1 文章の種類と内容・構成について

① 相手や目的に合っているか

ガイドブックは、場所や施設について、行ったことがない人に、行き方や内容を紹介するものである。だれに、なんのために紹介するのをはっきりさせ、内容の程度や書きぶりを見直すようにする。

② 伝えたいことがはっきり分かるか

ガイドブックでは写真や図の果たす役割が大きい。文章で示すよりもひと目見て分かる工夫ができるからである。それらが効果的に使われているか(適切であるか・大きさや位置はどうかなど)をグループ内で見直すようにする。

2 表記や表現の工夫

3 読み手を引きつける工夫

・グループで分担している場合は、個々の書いた部分が全体としてどうかについて考える。個性は認めるが、全体として調和が取れているか、最初のルールに合っているかを見直す。
自分たちの思いを

● 一般的なガイドブックと違い、子どもたちの作るものは相手も目的もはっきりしている。このガイドブックを受け取る相手にメッセージを寄せることは、本単元のねらいにふさわしいだろう。目的や使い方、読者へのメッセージなど、自分たちの思いが相手に届くことを考えて後書きを書かせたい。グループ製作の場合はカラーコピーし、それぞれが後書きを書けるようにする。

評価

関 読み手に分かりやすく伝わるように、必要な写真、図を用いて書こうとしている。 [作品]

書 必要に応じて写真、図、小見出しなどを効果的に配置し、文章を書いている。 [作品]

第4次（11時）

目標

ガイドブックを読み合い、表現やレイアウトのしかたに着目して助言し合うことができる。

時

11

学習活動

- ①学習のねらいを確認する。
- ②ガイドブックを読み合い、感想を述べたり、効果的な書き方について助言し合ったりする。

〔板書例〕

ガイドブックのよさを見つけた
り、工夫や効果について助言したり
しよう。

○読み合う視点

- ・ 相手や目的がはっきりしているか
- ・ 伝えたいことはなんだろう
- ・ どんな思いや配慮が伝わってくる
だろう

○効果的な書き方について

- ・ 役に立つ情報はなんだろう
- ・ 表現の工夫
- ・ レイアウトのしかた
- ・ 図や表、写真の使い方

③感想や助言をもとに、学習のまとめをする。

次の学びに生きる感想や助言の交流

●まずは「行ってみたいくなるか」「行って楽しめそうか」と考えさせる。どちらにしてもその理由を考えさせることで評価が具体的にになる。

●「よかった」や「おもしろかった」だけでなく、次の学びに生きる感想や助言の交流にした。そのためには、交流の観点をはっきりさせねばならない。また、聞くだけでなく、助言が次の学びに生かせるようなまとめが大切である。それが学び方を学んでいく力となる。

①読み合う視点について

だれに対してどんな目的で書かれたものなのかをはっきりさせ、想定した読み手の立場になつて読んでみる。伝えたいことがはっきりしているか、作り手の思いや配慮が伝わってくるかなど、他者の立場から書き手の思いを考えると、自分の表現にも他者の視点が入ってくるようになるだろう。

②効果的な表現について

相手・目的に合わせた効果的な表現ができてくるかを交流する。観点を示したワークシートを用意すると、学習のまとめに生かせる。よさをたくさん見つけ、アドバイスは次に生かせるものにする。

●感想を交流して、自分の表現のよさやよりよくなりたい点をまとめる。

評価

関 相手・目的に合わせた効果的な書き方を考えようとしている。〔発言・観察〕
書 表現やレイアウトの工夫やその効果に着目して、友達のガイドブックについて

助言している。〔発言〕

	☆よさを見つけたり、助言したりしましょう。
観点	いいところ
図や表、写真	
レイアウト	
文章の書き方	アドバイス

四 読書の世界を深めよう

森へ

本は友達

学習時数●十二時間（読む七 書く三 話す・聞く二）

指導計画例

第1日 4時 「森へ」を読み、さまざまな表現の工夫を意識しながら、森の様子を想像し、自分の考えを交流し合う。

読／伝 筆者の心の動きや場面の情景描写について、工夫した表現を理解し、想像を膨らませて読んでいる。

第5日 5時 「本は友達」を読んで、読書発表会までの見通しをもち、読みた本についての要望を出す。

関 どういう本を読みたいか考えている。

第6日 8時 要望にこたえる本を二冊以上比べて読み、適切なものを一冊選ぶ。

関 友達の要望に合わせて、比べて読もうとしている。
読 二冊以上の本から、友達の要望と照らし合わせてより適切な本を選んでいる。

第9日 10時 推薦文の書き方を知り、選んだ一冊について、よさが伝わるよう推薦文を書く。

書 友達の要望に合わせて、その本のよさを明確にして推薦文を書いている。

第11日 12時 読書発表会を開く。

関 友達の発表に関心をもって聞き、今後も本を読もうとしている。
話・聞 友達に薦めたい本のよさを工夫して発表している。

<p>目標</p> <p>◎優れた情景描写や説明を読み、筆者の体の動き・心の動きに寄り添って、未知の自然の物語を味わう。</p> <p>◎さまざまなジャンルの本を読み、それを推薦する文章を書いて紹介し合い、読書の世界を広げ深める。</p>	<p>身につけたい力</p> <p>話・聞……クラスの友達に薦めたい本の魅力を発表する。(1)イ</p> <p>書……その本のよさを明確にしなが推薦文を書く。(1)アイ(2)ウ</p> <p>読……筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読む。(1)エ</p> <p>読……自分の薦めたい本について、その魅力や理由を発表する。(1)オ</p> <p>読……友達に薦めたい本を複数冊読んだうえで選び、選んだ一冊について推薦文を書く。(1)カ(2)エ</p> <p>伝……筆者の工夫した表現を味わう。(1)イ(カ)</p>
---	---

指導の展開例

1年

2年

3年

4年

5年

6年

第3次（6～8時）

目標

友達の要望にこたえる本を二冊以上比べて読み、適切な本を一冊選ぶことができる。

時

学習活動

8.7.6

①学習のねらいを確認し、友達の要望にこたえる本を集めて読む。

〈板書例〉

おすすめの本を一冊選ぶほう

学習の進め方

1 友達の要望に合いそうな本を二冊以上探して読む。

2 読んだ本のメモを書く。（要望に合うか）

3 友達の要望と読書メモをもとに、一冊にしぼる。比べて読むときの観点

○友達の要望にぴったり合うか。

○友達がそのような本を望む理由に合っているか。

②読んだ本の中から、友達の要望に合う本を一冊選ぶ。

③選んだ本の観点をはっきりさせておく。

相手意識をもって本を選ぶ

●相手からの要望で本を探して読み、紹介するという経験は初めてだと思われる。他者の思いを受け入れて本を選ぶことは難しい。なぜそのような本を読みたいのか、どんな本なら読んでくれるのかといろいろに思いを巡らさなければならぬ。

〈読書メモ例〉

①だれの（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）

②なぜそのような本が読みたいのか

書名	作者	出版社	友達の要望と合っているか

●相手の要望に合わせた選書は、自分の読書を広げることにもなる。双方向性のある読書活動で、ジャンルを広げ、初めて手にする本が増えていくことを期待したい。自分で探せない児童にはブックリストを用意し、個別に支援する。

※本案では「○○さん」という特定の個人に向けて推薦しているが、この場合には、互いの親疎やこれまでの関係に活動が左右されないう配慮が必要である。相手を特定の個人でなく、「○○な本を読みたい人へ」というようにグループにすることもできる。

評価

関 友達の要望に合わせて本を選び、比べながら読むとしている。

〔観察・読書メモ〕

読 二冊以上の本から、友達の要望と照らし合わせてより適切な本を選んでいる。

〔観察・読書メモ〕

第4次（9・10時）

目標

推薦文の書き方を知り、選んだ一冊について、よさが伝わるように推薦文を書くことができる。

時

学習活動

10・9

- ①学習のねらいを確認し、推薦文の書き方を知る。
- ②組み立てメモを書く。
- ③下書きをする。
- ④推敲して清書をする。
- ⑤グループで読み合い、学習のまとめをする。

推薦文を書くために

●子どもたちにとって、推薦文は初めての経験だろう。紹介文とは違い、相手の要望に合わせて読書をし、その中から適切だと思う本を選ぶ。その思いが伝わるような文章を書かねばならない。P44「よりよい文章に」を再度使い、推薦文について考えるようにしたい。

●推薦文は書く側にも読む側にも明確なねらいがある。相手が要望していることに応じるために何を書かねばならないのか、おのずとはっきりとしておくだろう。これまでに書いたことのある読書紹介文は、その本を紹介する書き手の思いが主となる。しかし、本単元では読手の要望に合う本を選んだ結果とその理由を明快に書かねばならない。相手・目的意識がより明確な文章である。書きだしや文体など読み手を引きつける効果的な表現方法についても考えたい。

〈推薦文の例〉

こん虫が大好きで、こん虫のことをもっと知りたいと思っている木下くんにおすすめする本は、「アリになったカメラマン」（講談社）です。こん虫写真家の栗林さんが、だれもとったことのないような写真を工夫してとっています。

木下くんはカミキリが飛んでいるところを見ることがありますか。ほくはありません。栗林さんが自然の中でどんな工夫をして写真をとっているのか、わくわくしながら読んでいきました。（中略）

評価

書 友達の要望に合わせ、その本のよさを明確にして推薦文を書いている。

〔観察・文章〕

資料

1年

2年

3年

4年

5年

6年

1 「推薦文を書くこと」を指導するにあたって

児童は、これまでも折にふれ、自分が紹介したい本についての文を書く学習を積んできている。ここでは、そうした経験をふまえたうえで、伝えたいという自分の目的にとどまらず、「相手の要望や目的に合致するように」本を選び推薦することが求められる。指導の際には、ほかのものと比較してのよさがとらえられるようにすることも有効である。

〈推薦文の内容〉

○読み手（相手）の要望

○この一冊を選んだわけ

・自分の感想

・どんなところが要望に合っているか。

〈効果的な書き方〉

○その本のよさから書き始める。

○相手の要望から書き始める。

○その一冊を選んだわけから書き始める。

○キヤッチコピーのような表現を用いる。

2 推薦文の例（教科書P67下段の作例と同じ本）

はらはらわくわくする本を読みたい人に、ケストナーの「エーミールと探偵たち」をおすすめします。

探偵ものの本はたくさんありますが、ほくがこれを選んだのは、なんといつても、主人公がぼくたちと同じ年ぐらいの少年だからです。しかも、主人公が一人で活やくするのではなく、大勢の仲間といっしょにちえを出し合って、犯人を追いこんでいきます。だからとても親しみがもてて、読んでいると自分も仲間の一人になったかのように、探偵気分を味わうことができます。「おれたちは、もつとよく見はりのできる方法を考えなきゃだめだ。」「グスタフ探偵からのことづけをもってきたのかい？」など、仲間どうしの会話にもどきどきさせられます。等身大の主人公と仲間の活やくに、ページをめくる手が止まらなくなる、まちがいなしです。このはらはら感、わくわく感をぜひ味わってください。

— 表現を味わい、豊かに想像しよう

やまなし

イーハトーヴの夢（伝記）

目標

- ◎ 「やまなし」に描かれた情景を表現を手がかりに想像し、作品の世界を味わう。
- ◎ 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方をとらえ、自分の生き方について考える。

身につけたい力

- 読……………作者について知るために、〈資料〉「イーハトーヴの夢」を読む。(1) イ
- 読……………「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読む。(1) エ
- 読……………「イーハトーヴの夢」を読んで、自分の生き方について考える。(1) オ(2) ア

指導計画例

学習時数●八時間（読む 八）

第1時 「やまなし」の全文を声に出して読み、感想を話し合って読みの視点をもつ。

関 「やまなし」の情景や言葉の使い方に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしている。

第3時 「五月」と「十二月」の情景を想像豊かに読み取り、違いについて自分の考えをもち、友達と交流する。

伝 比喩表現の効果や擬声語・擬態語を理解し、情景を想像している。

読 場面ごとに出来事や描写を読み取りながら、比喩表現など優れた言葉の使い方を味わい、「五月」と「十二月」のイメージを対比して考えている。

第6時 伝記「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方を理解する。

関 賢治の生き方・考え方から自分たちが学ぶことを考えながら読もうとしている。

読 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や理想について自分なりの感想をもっている。

第8時 賢治の生き方をふまえ、自分の生き方を考える文章を書く。

読 賢治の生き方をふまえ、自分がこれからどんなふうになりたいか、考えたことを書いていく。

指導の展開例

1年

2年

3年

4年

5年

6年

第3次（6・7時）

目標

「イーハトーヴの夢」を読み、賢治が大切にしてきた考え方をつかむことができる。

時
学習活動

6

①「イーハトーヴのパノラマ地図を見て、気づいたことを発表する。

②「イーハトーヴの夢」を読む。

③「イーハトーヴの夢」をもとに、賢治の人生すごろくを作る。

パノラマ地図の提示

●パノラマ地図を提示し、気づいたことを自由に発表させる。「やまなし」やその他の賢治作品に関係があることを確認したり、賢治の物語の舞台「イーハトーヴ」であることを知らせたりする。また、賢治の写真を提示したうえで、伝記「イーハトーヴの夢」があることを知らせ、賢治の人生や夢について想像させる。

「イーハトーヴの夢」を読むときは

●次の二つの問いかけをしたうえで、教師が範読するとよい。

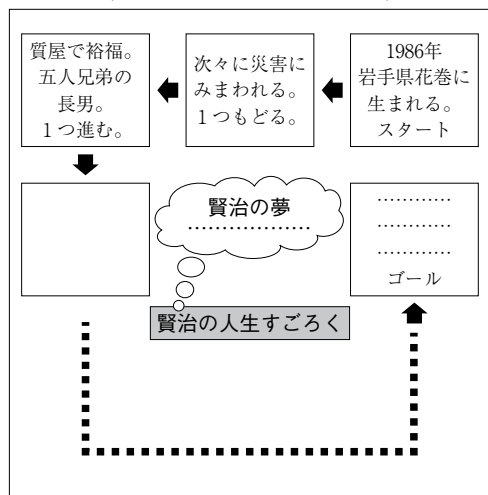
- ・賢治はどんな人生を送ったのだろうか。
- ・イーハトーヴの物語にどんな夢を託したのだろうか。

すごろくの作り方

●賢治の苦労や喜びをすごろくにまとめることを投げかけ、次の点を確認する。

- ・スタートは賢治の誕生にする。
- ・苦労のこまは一つ戻る、喜びのこまは一つ進むなどの工夫をする。
- ・ゴールは賢治が亡くなったことにせず、賢治の夢が作品によって認められたことなどにする。

〈賢治の人生すごろくの例〉



①賢治による農業関係の活動について話し合う。

②賢治の作家としての活動について話し合う。

③賢治の考え方・生き方から自分たちが学ぶことについて発表し合う。

賢治が大切にしていた考え方をおさえる (1)

- まず、賢治の出生時から災害に見舞われて農作物が被害を受け、農民が苦しんでいたことを確認する。
- 次に、賢治による農業関係の活動を短冊に書いておき、業績を確認する。そのうえで、賢治がどんな考え方を大切に生きてきたのか尋ねる。農業関係の活動には、農作物の被害から農民を助けたいという賢治の強い思いがあったことをおさえる。

賢治が大切にしていた考え方をおさえる (2)

- まず、イーハトーヴの地図に関連して、賢治の作品群を思い出させる。また、どんな主人公が何をしたのかについても、本文をもとに確かめておく。
- 次に、「イーハトーヴの物語を通して追いつめた理想や夢」のカードを提示する。これが、作家として賢治の大切にしてきた考え方である。この抽象的な考えを具体化するため、次のような発問を投げかけたい。
 - ・これらの理想や夢とは具体的にどんなことを指すのか。
 - ・賢治作品のどんなところにこれが表れているのか。
 - ・賢治作品の主人公のどんな行動にあたるのか。

賢治の考え方・生き方から学ぶことを考えさせる

- 農民を助けたいと願う賢治、人間や動物や植物の心が通い合う世界を願う賢治、優しい心に向けてほしいと願う賢治などについて確認した後、「自分たちの生活でこれからがんばりたいなあとと思うこと」について発表させて、生き方について文章を書く次時につなげる。

※板書例は、次ページをご覧ください。

評価

関 賢治の生き方・考え方から自分たちが学ぶことを考えながら読もうとしている。

〔観察〕

読 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や理想について自分なりの感想をもっている。〔観察・発言〕

〈板書例〉

イーハトーヴの夢

畑山博

賢治は、どんな考え方を大切にしてきたのか？

宮沢賢治

- 災害
- 農作物の被害
- 農民の苦しみ

〈作家としての活動〉

◆盛岡高等農林学校 (農業技術を学ぶ)

◆花巻の農学校の先生 (農業技術を教える)

◆羅須地人協会 (農民になる)

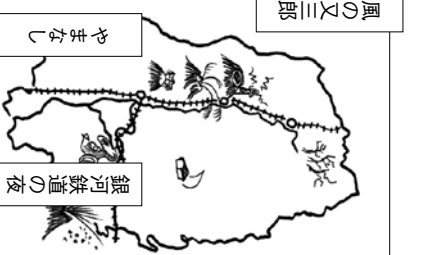
◆ボラソニア (一人一人に教える)

◆石灰肥料会社 (土地改良を広める)

◆詩や童話の執筆

グスコブドリの伝記

セロ弾きのゴーシュ



- ◆イーハトーヴの物語を通して 追いつめた理想や夢 人間がみんな人間らしい生き方ができる社会
- 人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界

一本の木にも心がある。
 ・自然や動物にもやさしい心を向けてほしい。
 ・又三郎、グスコブドリ、ゴーシュなどの主人公のように、自分ができることをがんばってほしい。
 ・やまなしが落ちてくるような自然のめぐみを大切にしてほしい。

災害に苦しむ 農民を助けてあげたい

賢治の考え方・生き方にわたしたちが学ぶことは何か？

第4次（8時）

目標

賢治の活動や考え方・生き方と自分の生活を比べながら、自分の生き方を考える文章を書くことができる。

時 学習活動

8

①賢治の活動や考え方・生き方について確認する。

②賢治の活動や考え方・生き方と自分の生活を比べながら、自分の生き方を考える文章を書く。

- ・文章の書き方を知る。
- ・文章を書く。

文章の書き方をおさえる

●原稿用紙一、二枚程度の分量でまとめさせたい。内容例を示すが、書きやすい内容で書いてよいことにする。この書き方をワークシートにして配布し、参考にさせるのもよい。

◆題名 〈例〉「イーハトーヴの夢」を読んで

◆内容例①農業関係の活動についての感想

〈例〉農業関係の活動でいちばん印象に残ったのは、「
なぜなら、………………。わたしも似たような経験があります。それは、……………」です。

◆内容例②作家としての活動についての感想

〈例〉作家としての活動でいちばん印象に残ったのは、「
その理由は、………………。わたしだったら、……………」です。

◆内容例③自分の生き方について考えたこと

〈例〉わたしは、宮沢賢治さんの「
わたしの生活では、………………。これからは、……………」などところを学びたいと思います。

※気をつけること

- ・自分との共通点や相違点に注目する。
- ・共感するところや取り入れたいことを書く。

●書き終わったら、終わった者どうしで読み合う。もし誤字・脱字等があれば伝えたり、文章のよさのみをコメントカードに書いて渡したりする。仕上がった文章は、教室の後ろに掲示したり印刷して配ったりして、全員の文章が読めるようにする。

評価

読 賢治の生き方をふまえ、自分がこれからどんなふうに生きたいか、考えたことを書いている。「文章」

資料

1年

2年

3年

4年

5年

6年

1 文章例(第8時)

「イーハトーヴの夢」を読んで

○○○○○

ぼくが賢治の農業関係の活動でいちばん心に残ったのは、羅須地人協会の活動です。賢治は、それまでも農民を助けたいという願いをもって、農学校で教えていました。でも、教えるだけではだめだと考えて、農民の一人になりました。農民の思いや立場を心から考えてあげる人だなあと思いました。

作家の活動では、やはり「やまなし」の作品がいちばん印象に残っています。五月のような弱肉強食の世界ではなく、十二月のようなめぐみの世界を、ぼくも願っているからです。「イーハトーヴの夢」を読んで、「やまなし」の十二月の世界は、苦しくて人と争わず実りを待つ農民の世界とつながっていると思いました。

ぼくたちは、つい友達や周囲の人と自分をくらべて競争してしまいます。勝てばうれしく、負ければ悲しくなります。とても自分勝手な生き方だと思えます。

そんな中で、親友になやみを相談したときに、すごくほっとした気持ちになったことを思い出しました。ぼくも、十二月の世界のように、人をほっとさせる、そんな友達になりたいと思います。

2 「生き方を考える」学習 参考図書

- ・「植村直己・地球冒険62万キロ」岡本文良(金の星社)
- ・「ウォーターハウス・ホーキングズの恐竜」
バーバラ・ケアリー著 千葉茂樹訳(光村教育図書)
- ・「科学読み物 世界を変えた日本の技術 全8巻」
後藤みわこ ほか(学習研究社)
- ・「国際ボランティア 星野昌子」杉山由美子(理論社)
- ・「坂本竜馬 飛べ!ペガス」古川薫(小峰書店)
- ・「同時通訳者 鳥飼玖美子」大橋由香子(理論社)
- ・「冬の花びら 雪博士 中谷宇吉郎の一生」高田宏(偕成社)
- ・「ホーキング 宇宙論のスーパードクター」
キティ・ファアガソン著 栗原一郎訳(偕成社)
- ・「ぼくが宇宙をとんだわけ 毛利衛と宇宙のこれから」
日野多香子文 黒田泰弘監修 毛利衛協力(講談社)
- ・「マザー・テレサ かぎりない愛の奉仕」
沖守弘(くもん出版)
- ・「レイチエル・カーソン」
ジンジャー・ワズワース著 上遠恵子訳(偕成社)